

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年(2011)5月10日
No. 41
発行 高津啓洋

第2回春の集い 名古屋植樹祭

本力雄支部長を中心に、緑の日の

5月4日、第2回春の集い、名古屋植樹祭が行われました。

市内で広い庭園のある、古民家風・和風喫茶・やっか庵を営む牧家において植樹祭を行いました。参加者は11人で牧家の庭にジンチョウゲ、ヤブツバキ、アセビの3本を植樹し、全員で写真を撮りました。

その後、喫茶店の2階のシアター



地球の緑を守る会・名古屋の山で青年奉仕隊の植林活動の様子を熱心に見入っていました。

続いて、1階の喫茶室で歓談の時間をもちました。山本支部長の長男の勝蔵さんがギターとオカリナの演奏をし、ミニコンサートのよう、憩いの時間をもちました。

特に、山本支部長から地球温暖化に歯止めをかけるためにも、車を運転する人は「1年間に160本の植樹」が必要であることを訴えました。

また、日本冬桜の会の名誉会長をされておられる藤野弘二氏からは、20年以上も全国の各地の学校や公共の場に、冬桜を植えてきた体験談や家庭を重視した人生観など、含蓄のあるお話はじめ、今

学校や地域が抱えている、いじめなどの教育問題など、有意義な講話もしていただくことが出来ました。

参加した方々は、今日の植樹祭はとても良かったと喜んでおられました。(名古屋発)

増水続くパラグアイ川

5月1日現在、パラグアイ川の水位は、ゆっくりではあるが、上昇傾向にあります。第一植樹園にも水が浸入をはじめ、ユウカリの林が、少し水没し始めてきました。水の進入口をふさいでも、雨が降った時に水が引かなくなる状況です。

増水と共にさらに多くの、カピバラが現れるようになってきまし



た。10数頭のカピバラ家族(三頭の妻)を従えた父さんカピ(写真左)、母さんカピの一頭(写真右、良く肥えています)です。陸の草だけでなく、水辺はピンクの花真っ盛りで、時にピンクの花の葉も食べています。洪水のことを考えなければ本当にのどかな風景となっています。(在パラグアイ・飯野元理事談)



【お知らせ】今年も、8月25日から植樹ボランティアが出発します。現地学生らとの交流会もあります。植樹支援を受け付けています。

